

はつらつ座安っ子



【学校だより: 令和4年9月 第8号】
豊見城市立座安小学校 校長: 具志直哉

なかよく かしこく たくましく

～主体的に他者と協働し、豊かな学び方を身に付け、夢や目標を持って粘り強く生きる子～

座安小学校の全職員は、子どもたち1人ひとりを認め、受け入れ、持っている「可能性を拓き伸ばす教育」の実践をめざし、全力でがんばります！

百年ガジュマル倒木の今後について

毎年のように襲来する台風による倒木被害は数多にあるけれど、今回の百年ガジュマルの倒木被害は、本校の子ども達、卒業生、関係者各位に大きな衝撃（驚愕と悲しみ等）を与えています。

今から14年前、100周年記念誌「百歳」には当時6年生の、こんな作文が掲載されています。

豊見城尋常高等小学校からもらったのが校庭のガジュマルだそうです。ぼくたちはこのガジュマルを毎日見ている。ぼくはこのガジュマルを見るといつも、「座安小学校ができてから、雨の日も風の日も、休みの日だってこの座安小学校を見守ってくれたんだなあ」と思います。時には、ぼくたちを木の下で休ませてくれたり、木のぼりをさせてもらったりしているガジュマル。これからも座安小学校の児童みんなで、大切に育てていきたいと思っています。

多くの方々から無念の気持ちや励ましの言葉が学校に届きます。朝の登校時に、お子さんの送迎で来校する卒業生（保護者）は倒木したガジュマルの前で立ち尽くします。「本当に倒れたんですね。残念です。」と卒業生達と言葉を交わし、「8日木曜日に歴代のPTA会長さんや雄志の皆さんと、今後について話し合います。子ども達や皆さんの思いが少しでも生かされるように一生懸命考えていきますね。」と答えました。

8日に話し合った、「倒木した百年ガジュマルの今後」についてお知らせします。

(1) 倒木した百年ガジュマルの再生について

(有) 泉川園芸 (与根) の泉川さんから、すばらしい提案がありました。倒木したガジュマルの根や幹は朽ちていますが、枝葉はまだ元気で再生が可能なのだそうです。左写真はイメージですが、このように元気な枝葉を可能な限り多く採取し、鉢植えにして根が張るまで(3ヶ月以上)、子ども達に水やりとか世話をさせます。そして育ったガジュマルを、運動場の周辺や適切な場所に植え替えます。

座安小学校の校庭には、百年ガジュマルの「子ども」が数カ所に生き続けることとなります。希望がわいてきました。



(2) 倒木した百年ガジュマルの活用方法について

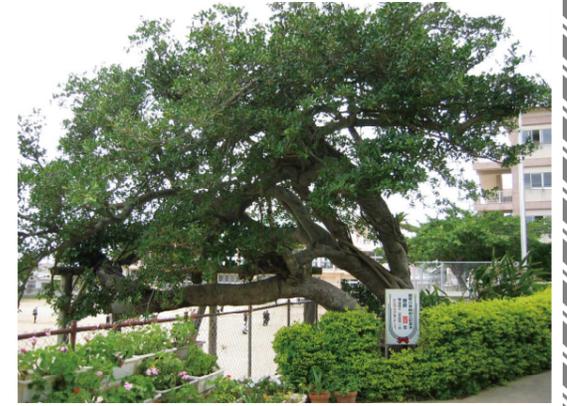
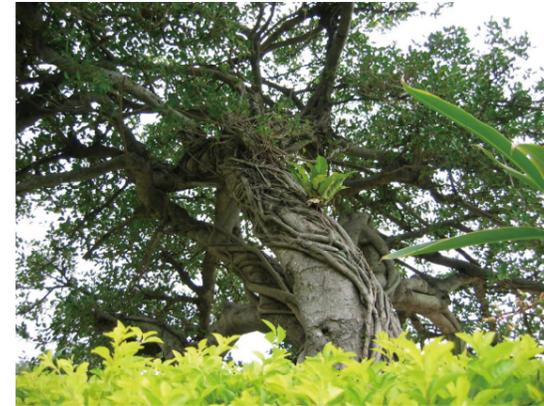
「キーホルダーをつくっては!」「倒木した木でシーサーをつくり、シーサーとして子ども達を見守らせた学校もあるよ。」などいろいろな意見が出されました。しかしガジュマルは木材としてはほとんど活用できないようで、再生のために採取した枝葉以外の部分は保管が可能なので、どれだけ残るかでモニュメントのようなものを作るなど、今後検討していくということになりました。保護者の皆様にも何かアイデア等がありましたら、学校までお知らせ下さい。

(3) 残った幹、根についての今後は?

朽ちた部分をできるだけ切り、残すことになりました。ただそのまま残すとシロアリが発生しますので、土をかぶせるなど専門的な対策をしていきます。もしも右絵のように枝が出てきたらと希望は持っています。切り株の周辺も子ども達にとって憩いの場所になるよう工夫していきたいと思っています。



(4) 元気だった百年ガジュマルの写真を引き伸ばして、玄関に飾りたい



元気だった頃の写真は残っています。引きのばしてコメントをそえたパネルにして玄関に飾りたいと思っています。

以上が、昨日(8日)に話し合った内容です。今後も何度か集まり、子ども達や卒業生、保護者の皆様にとって少しでも理解を得られる取組をしていきたいと思っています。

全国PTA研究 山形大会に行ってきました

先月参加したPTA山形大会では、「みんなの学校」の初代校長で著名な木村泰子氏の講演から多くを学ばせてもらいました。キーワードは「空気感」。



「みんなの学校」で有名な大空小学校には、他校から不登校児が大空小の噂を聞きつけて多く転入してきます。そして毎日何事もなかったかのように登校できるようになります。 「なんで学校に来られるようになったん? 前の学校と何がちがう?」とその子たちに聞くと、「大空小は空気が違うねん!」と答えるそうです。

「空気」なんかわかる気がしませんか? 安心感があるというか、落ち着く、自分が自分でいられるみたいな。

ご家庭には、我が子にとってどんな「空気感」がありますか? 今回の講演での木村氏の語録に、子どもたちにとってよりよい空気感となる居場所のヒントが見えます

- ・大空小では「子どものために」という言葉を捨てた。「子どもを育てる」も捨てた。主語が大人だから。「子どもが育つ学校(家庭)」をつくる。
- ・教えるプロもいない。教えるプロ(親)から(子どもとともに)学ぶプロ(親)へ。
- ・教育という言葉も捨て、学びという言葉も大切に。だから子どもとともに学び合う大人が育ってきた。

